

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ05-08-3/5)

目 的

西アジア諸国、とくに紛争後にあるアフガニスタンやイラクの文化遺産の調査研究を行うとともに、文化遺産の保存・修復を支援し、関係する技術の移転を図り、当該国における専門家育成を行う。また、あわせて周辺地域の文化財調査研究を実施し、西アジア諸国等における文化財の保存協力事業に役立てる。

成 果

1. アフガニスタン (バーミヤーン)

2008 (平成20) 年度は、アフガニスタン国内の治安の悪化に鑑み、バーミヤーンへのミッションの派遣を見合わせ、日本国内等において可能な協力事業を実施した。なお、文化財専門家研修事業に関しては、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「バーミヤーン遺跡の保護」事業と連携して実施した。

1-1. アフガニスタン文化財専門家研修事業

(1) 考古学専門家の人材育成・技術移転：考古学研究所より研究員2名 (ユネスコ日本信託基金による招へい者1名) を招へいし、7月18日～12月22日にかけて、東京文化財研究所 (7/18～9/12、12/15～12/22)、流山市教育委員会 (8/25～8/28)、奈良文化財研究所 (9/16～12/12) において考古学調査の技術研修を実施した。

(2) バーミヤーン仏教石窟出土の樺皮文書の保存修復及び専門家の人材育成・技術移転：2007 (平成19) 年度に続いて、11月13日～1月30日にかけて、石窟から出土した樺皮仏典断片約600点を東京文化財研究所に移送し、仏典の保存修復処置を行った。あわせて、カーブル博物館より職員2名 (ユネスコ日本信託基金による招へい) を招へいし、文書の保存修復とそれに関わる基礎的な技術や知識に関する研修を実施した。

1-2. バーミヤーン遺跡保存のための専門家会議への出席

2008 (平成20) 年6月12、13日、ドイツのミュンヘンで開催された第7回目となる「Expert Coordination Meeting for the Preservation of the Bamiyan Site」に出席 (山内和也、前田耕作、谷口陽子)。

1-3. 『アフガニスタン文化遺産調査資料集』の出版

アフガニスタン文化遺産調査資料集の概報第4巻『バーミヤーン遺跡保存事業概報—2007年度 (第8次ミッション) —』及び同英語版『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2007—8th Mission—』、概報第5巻『バーミヤーン仏教石窟出土樺皮仏典の保存修復』、別冊第3巻英語版『Preliminary Report on the Environmental Investigation for the Conservation of the Bamiyan Site: 2005 and 2006 Seasons』を出版した。

1-4. 外部機関・団体との共同研究等

(1) 金沢大学「アフガニスタン・バーミヤーン遺跡出土陶器の研究」：バーミヤーン遺跡の考古学調査によって出土したイスラーム陶磁器に関し、バーミヤーン、テルメズ、サマルカンドの3遺跡から出土した施釉陶器の素地分析データを測定し、比較を行った。それによって、バーミヤーン遺跡出土の施釉陶器の素地成分元素の特徴を探り、その特徴を考古学観察結果と比較検討し、産地の考察を行った。

(2) 株式会社パスコ「バーミヤーン石窟遺構の現状記録調査のための研究」：パスコと共同で、石窟保存のための活動の一環として、遺跡保存管理・活用計画や学術調査のための基礎資料の蓄積を目的として、石窟の測量調査を実施してきた。2008年度は、これらの記録データを遺跡保存のために不可欠な基礎資料として活用するために、遺構の実測図面の整備を含むドキュメンテーションに関する研究を行った。

(3) 株式会社応用地質「バーミヤーン遺跡保存のための崖崩壊予測および地下探査に関する研究」：石窟や大仏が掘り込まれている崖の劣化状況を把握し、その崩壊・劣化のメカニズムを解明するために、現地調

査で得られた基礎データを基に、東大仏周辺の岩盤モデルを作成し、この岩盤モデルに自重を作用させ、現況の石窟周辺の歪み分布、点安全率の分布を数値解析により明らかにした。

- (4) 同志社大学「アジナ・テパ遺跡における遺跡環境アセスメントとデジタルアーカイブ」：ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「タジキスタンの仏教遺跡保護プロジェクト」に参加し、アジナ・テパ遺跡の保護のための活動の一環として、アジナ・テパ仏教寺院を取り巻く歴史背景の解明を目的に、アジナ・テパ遺跡周辺の文化財や灌漑システムの位置およびその現況を記録する調査を実施した。
- (5) 名古屋大学年代測定総合研究センター「パーミヤーン仏教壁画の年代測定」：2004（平成16）年度から継続して、アフガニスタン情報文化省の協力の下、仏教石窟内に残された仏教壁画の下塗りに含まれている藁スサを用いて放射性炭素年代測定法による年代測定を実施している。

2. イラク

イラク人専門家の人材を育成し、イラク人による文化財復興を支援する。本事業は、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「バグダードにあるイラク国立博物館の保存修復室復興事業」と連携して実施した。

2-1. イラク文化財専門家研修事業

イラク国立博物館より2名（ユネスコ日本信託基金による招へい）の保存修復家を招へいし、7月1日から12月10日の約半年間にわたり、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、静岡県埋蔵文化財調査研究所、九州国立博物館で、木製品をはじめとして金属製品などの考古遺物の保存修復に関連する研修を行った。

3. 西アジア周辺諸国における文化遺産保護に関する調査・研究等

3-1. タジキスタン

- (1) タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の保存修復：2007（平成19）年度に締結したタジキスタン共和国科学アカデミーの歴史・考古・民族学研究所と文化遺産の保護に関する合意書に基づき、文化庁委託事業である文化遺産国際協力拠点交流事業と連携してタジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の保存修復及びタジク人文化財専門家の人材育成・技術移転を行った。
- (2) アジナ・テパ仏教寺院の保存修復：ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「タジキスタンの仏教遺跡保護プロジェクト」と連携し、遺跡の保存修復に関わるクリーニング及び考古学調査を実施した。

3-2. インド

- (1) アジャンター壁画の保存修復：文化庁委託事業である文化遺産国際協力拠点交流事業と連携して、インドのアジャンター仏教壁画の保存修復活動を開始した。11月21日に、インド考古局デリー本部において、東京文化財研究所とインド考古局との共同調査に関する合意書を締結し、2009（平成21）年2月に、第1次ミッションを派遣し、壁画の保存修復に向けた調査を実施した。

3-3. 国際会議等への参加

「UNESCO Sub-regional Workshop on Serial Nomination for Central Asian Petroglyph Sites」（2008年5月27日～31日、於ビシュケク、キルギスタン、出席者：山内和也）、「UNESCO Sub-regional Workshop on the Serial World Heritage Nomination of the Silk Roads」（2008年6月2日～5日、於西安、中国、出席者：山内和也、前田耕作）

研究組織

○清水真一、山内和也、朽津信明、宇野朋子、有村誠、影山悦子、島津美子、邊牟木尚美、鈴木環（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、岩井俊平、西山伸一、谷口陽子（以上、客員研究員）、小林謙一、井上和人、窪寺茂、森本晋、石村智、脇谷草一郎（以上、奈良文化財研究所）、中村俊夫（名古屋大学）、佐々木達夫（金沢大学）、木口裕史（株式会社パスコ）、島馨（応用地質株式会社）